

# 部報

1.

|             |       |    |
|-------------|-------|----|
| 部報発刊に際して    | 太秦 康光 | 1  |
| 自馬撃養の念願がなつて | 松本 久哉 | 2  |
| 馬術部復活       | 大久保利彦 | 4  |
| 北大乗馬同好会現況   |       |    |
|             | 百藤 善一 | 9  |
| 御辰抄にひいて     | 宮沢 寛  | 10 |
| 新生活種々相      |       |    |
| 珍争悪文いたすら日誌  |       |    |
|             | 荒川 清  | 14 |
| と念いの夜の思い出   |       |    |
|             | 生田 勝一 | 15 |
| 生きものの記録     | 岡部 満雄 | 16 |
| チャレンジ「鎧」争奪記 |       |    |
|             | 宮沢 寛  | 17 |
| 戦績表 編集後記    |       | 19 |
| (附)馬術部名鑑    |       | 22 |

北海道大学馬術部

# 部報発刊に際して

部長 太 秦 康 光

わが馬術部が北大文武会中の一つの部として誕生したのは昭和五年の四月であるから、創立以来既に四半世紀にわたつたわけである。私は昭和十四年前部長黒沢教授の後任として馬術部長に就任したが、幸運にもその年予科は全国高校戦に始めて優勝し、更に全日本学生選手権には農学部の間際君が堂々一位の栄冠を獲得し、北大馬術部の名を天下に轟かしたので、新米の部長もお蔭で大いに肩身の広い思いをしたのであつた。

兩來星霜移ること十六才、太平洋戦争勃発後暫くは鍛錬部騎道班として活躍を続けていたが、戦局の進展と共に肝心の乗馬にことを欠くようになり、殊に終戦後はわずかに馬術部の名を残すだけで、平実上全く開店休業の有様とさえなつた。しかしその後札幌乗馬クラブや競馬場などの御後援により、或程度は練習は可能となり、部員も次第に増加して来た。そして昨二十九年の国体開催を機とし、島、杉堅、目面学長始め大学当局の御好意によつて、多年の宿

望であつた自馬繁養のことを遂に実現し得たことに御慶びにたえない。そしてその効果は靦面に現われ、六月末の東北北海道地区の競技会に優勝したので、反切りに、七月の旧帝大戦或は刃帯広戦にも夫々優勝、また近くは国体並びに全日本でも見事な成績をおさめることができた。まことに赫々たる戦果といふことができよう。

去る八月四日には旧帝大戦等の優勝を祝うために、先輩、現役部員が集つて杯を挙げたのであるが、八月四日といえは奇しくも十八年前の昭和十二年第一回の帝大戦において、わが部が初の覇権を握つたその日に當つたので、この夜は第一回の優勝を刻んだ東久通官孟をかねて懐旧談に花を咲かせたのであつた。

十数年ぶりに廻り来たこの栄誉は永く保持して行くべきものであるが、それについて部員諸君特に若い諸君に望むことは要馬心・基礎練習・鞍敷といふ三つのことである。昨年国体の折遊佐幸平先生が七十才の老軀を引提けて供覧馬術に出場、満場を驚かすの神技に酔つたことは我々の記憶になお新しい所であるが、この日競馬場から円山の会場への往復は勿

論、乗馬後の手入までも自身でやられるのを見ては、畦頭が下がるのみであつた。愛馬心ことは馬術のアルフアでありオメガでもある。その遊佐先生火審判委員長をされた後軍中で私に洩らされた感想は「今日の障碍出場者中真に飛越競技をやる能力のあるものは殆どない。彼等は全然基礎ができていない」ということであつた。私が軍隊にいた頃我々の教官は基礎訓練に特に重点をおき、最初の二ヶ月は鎧を支給せず、鎧なしの鞍で毎日三時間ずつ速歩常歩での馬上体操をくり返すのみであつたが、そのためか四ヶ月後の第一期検閲には他の中隊よりも断然優越な技倆を示すことができた。基礎の大切なる身を以て体験したのであつた。

-2-

鞍敷——つまりできるだけ鞍多く乗ることもまた馬術修行の要訣である。昔から千鞍一修行といふことをいつた。千回乗るといふことは了マチュアとして容易なことではないが、要は一鞍でも余計に乗るといふことであらう。部員諸君には何卒これらのことを心にたためこんで馬道に精進し、歴史あるわが部の榮華をいやが上にも輝かせねんことを切に希う次第である。

(昭和三〇・二二五)

## 自馬繫養の念願がなつて

顧問 松本久 七七

去る十月十五日教室の連中と盃食後の漫談をやつている時に河崎さんと言う人から電話だと言うので受話機を受取ると非常に懐しい河崎秋三君の声である。北大の馬術部としては忘れられない人で、東京から日高へ出張の途中駅前からの電話であつた。氏と逢うのは十四、五年振りである。旧陸軍の獣医中佐としてスマートトハスタイルで兩方で活躍し、生還後やはり馬の仕事を東京でやつている。昭和六年北大の同志でやつていた北大乗馬会から北大馬術部として昔の文武会に席を置くようになったのも氏等の努力の賜物であつた。その次は月寒に歩兵聯隊があつたので、其処の將校乗馬に土日の両日乗せてもらつていたが、何かにつけて不自由もあり部で馬を持ちたい希望者が多くなつて来た。私は昭和六年卒業後教室に残ることに成り、その次から被害者の立場に立たざるを得なくなつた。と言うのは畜産の学生の乗馬は正科に成つており、十頭余りの乗馬が農場に繫養されていたが、部の連中は試合が近づくとな

日の雨日の月寒の練習以外に学校の馬にも乗りたくはるのが人情である。実際には学校の馬は畜産学科の学生以外には乗せない内規があつて、外部の学生や駄買などが乗るものなら、畜産の学生ばかりでなく仲々やがましい先生がいてすぐ小生のところへ苦情が申込れる。従つて馬術部の連中が学校の馬に乗せにくれと言つてくると一言のもとにお断りするのが例があつたが、朝農場の馬場を練習しているのは大抵部の学生で、側で眺め、かつ奴んとか指導らしいことを言つてる人も小生であつた。誠に矛盾した景色が見られるのであるが、教室の先生方から朝馬に乗っているのは部の学生だろうと聴かれても知らぬ顔をしていたものである。誠に融通がきき過ぎた感があつたが、蔭の被害は相当なものがあり、それに懲りて次後融通をきかせぬ様に努力している。畜産の馬も競争が烈しくなる頃から飼料不足を來にし、それに老齡馬が斃れるとその補充がつかなくなり何所の間に以農場から乗馬らしい馬の姿が見えなくなつてしまつた。やがて競争も終り、学生諸君もどうやら落着いて來て、乗馬の氣運もぼつぼつ昇つて來たが、丁度二十八年度の国体札幌決定と共に道

庁でも二十七年の秋から国体使用の乗馬の準備計画も出來て一部の馬は小生も關係して購入した。國体の成績は兎も角として、太秦先生の御墨刀で当所の島学長からその馬の一部を購入する許可を得たことは誠に甚しいことであつた。二十九年十月から農場に繋養され学生諸君が管理一隊をやることにして部の馬として永年多くの先輩達の希望が達せられた訳がある。勿論学生諸君は自分等の学費小使が両親や兄弟が如何に苦勞して送つて來ているか解らぬ様に馬の飼料がどうなつてゐるかなどは知る筈もない。農場の係の人に貯金でも引き出す様に何か書いた紙片を渡して牧草や燕麦を受取つてゐる。

しかし一方部員の三十年度の活躍は物傳いものがあり、公式の試合には殆ど優勝し、或る学校の定期戦では三年連勝でチャレンヂの賞を永久獲得したのを始めとして帝大戦の大きなカツプも又し振りで押見出來たことはやはり自馬を持つたに於てあると思ひ、島学長や太秦先生に深く感謝しなければならぬが、小生も亦々農場に部の乗馬が繋養されて以前に劣らぬ被害者にはりつゝある。どうかこの被害者の被害の程度を少くして頂きたい。終りに先輩各位

# 馬術部復活

前主将 大久保利彦

昭和二十六年年度

馬術部が戦后復活したのは、昭和二十六年九月十一日との事である。其の当時の事は知らない。と云うのは、私は昭和二十七年入学学生であるから……しかし其の当時の事は種々諸先輩の方々からお話をお聞きして居たので記憶を新にして筆を走らせて見る事にしよう。

「戦前は種々の記録に有る様に輝かしい成績をおさめて来に部を戦后無きままにして居ると云う事は、全く残念である。そこで経済事情もやや落着いて来に様であるから、一つ馬術部を完全なスポーツ団体として復活しようではないか」と云うのが復活の気運だつた様に思われる。

そこで、「種々馬術らしき物に多少でも経験の有る者を先ず入部させようではないか」と云う事から

部員募集が始つたらしい。勿論、「全くの無経験者も大歓迎した」との事である。

先ず骨格を作られた方は、渡植貞一郎氏、下飯坂隆氏等が中心にはうれた様である。

## (一) 役員

|        |             |
|--------|-------------|
| 馬術部々長  | 太秦康光教授      |
| 顧問     | 松本久喜教授      |
| 主将     | 古谷昌司氏(旧制大)  |
| マネージャー | 後藤義英氏( )    |
| 会計     | 奇藤善一氏( )    |
|        | 渡植貞一郎氏(新制大) |
| 庶務     | 下飯坂隆氏( )    |
|        | 永井重翁氏( )    |

と云つた面々で二拾数名の部員が集つた様である。しかしながら部員は集つたが乗馬と名のつく馬は北大に一頭も居ないので竟馬場内の札幌乗馬クラブの馬四頭を月二千円で月水金午前三時より五時迄借用して練習されたとの事である。何しろ復活にはか

りである故もつばら部をまとめる争ばかりに力を入れたと見え、試合は唯一回となつてゐる。

(二) 試合 畜大対北大定期戦 北大勝つ(於帯広)

(三) 入部金二百円也。部費月百円也。

昭和二十七年年度

此の年は前年の延長の年と云つた感じである。部員は其のまま、又練習日及び時間も何ら変化はなかつた。唯一年生の新入部員、即ち吾々の様な者が一枚加わり総勢七拾数人となつた事だ。しかし最後に迄部にとどまつた者はやはり三拾人前後であつた。前期(愛休み前)の練習は馬術部ならずして、馬術らしき物見学の部々と云つた感じが有つた。と云うのは四頭の馬はいずれも十六才以上と云う馬ばかりで、当然そうなるであらうが……。又試合回数も四と五回となり上下を問わず資金面に種々苦労し戦前には見られぬ部主催の「ダンスパーティー」なる催しをし、一夜にして一方教陣円を手にした事すら有つた。

(二) 試合 畜大対北大定期戦 北大勝(於札幌)

東北対北大定期戦 北大勝(於仙台)

旧七帝大定期戦 (北大才二位) (於仙台)

東北北海道学生馬術大会 (北大才二位) (於大磯)

団体北城千送 通過 (於福島)

(三) 入部金 二百円也。部費月百五拾円也。

昭和二十八年年度

前年度に比して全く変つた部が出来上つた。と云うのは二十七年は一応のスケジニールを組み毒絶した様は部活動であつたが、二十八年は全く心肝を何事もやろう。と云うのである。部員約四拾名で皆新制大生ばかりとなり、又練習の方も活撥となり朝六時より八時迄札幌競馬場所有馬数頭無料借用し、午後は前年度通りと、午前午後の練習が始められ部員も非常に馬術に熱心になつて來、夏冬と二回の合宿練習も出来る様になつた。しかしながら吾々の部にはコーチが居らない、と云うのが一回の悩みであつた。そこで榊原主将はあらゆる方面に手を延ばされ拾冊もの馬術の本を集められ大いに部員に講議されたのである。

(一) 役員

主将 榊原正人氏 (腹三)

マネージャー 大久保利彦 (教養二)

会計 正富広之氏 (理三)

會計 加藤 吾氏 (教養二)

庶務 阿部晃一氏 (工三)

田中 浩氏 (工三)

(二) 試合 畜大対北大定期戦 畜大勝 (於帯広)

東北対北大定期戦取りやめ

旧七帝大定期戦 (北大才二位) (於札幌)

東北北海道学生馬術大会 (北大才四位) (岩手大優勝)

(於盛岡)

全国学生馬術選手権大会

榊原正人氏 第十九位

(三) 入部金 二百円也。部費月百五十円也。

昭和二十九年度

前年度の成績は余り良くはなかつた故、今年こそは、という気運が部内一般に広がつて行つた。それに今年には国体の馬術が札幌で行われる年でも有るから此の機に大いに馬に乗ろうと云うのである。しかし国体使用馬は調教中とあつて誰でも騎乗は出来なかつた。しかしこれも心肝で何とか乗せてもらうのではなくして乗つてしまおうと云うのである。お蔭で合宿練習も春更(二回)秋(いすれ)も国体・馬使用(冬(自馬)の計五回)も行つた。又春

夏の合宿の時には大望のコーチャーとして荒川米吉調教師、元橋忠作調教師をおねがいして馬術とはこゝんが物だ、と云うのをしみじみと味あわしていた。君らのは馬術ではなくて乗馬だ、と云つた調子で……。

又国体が有る事から、北大に居られる先輩の方々を中心に札幌市内の諸先輩も続々と集つて来られ、馬術熱が再燃した感があつた。又国体馬を利用して一般を含む大会が数多く有つた。紙面の都合上関係のみ記すとする。

(一) 役員

主幹 榊原正人氏 (農四)

マネージャー 大久保利彦 (獣三)

會計 正富広之氏 (理四)

岡本 光氏 (農三)

庶務 加藤昌太郎氏 (理三)

干田哲生氏 (獣三)

(二) 試合 畜大対北大定期戦(春) 畜大勝

(於札幌)

東北対北大定期戦取りやめ

旧七帝大定期戦 (北大才二位) (於名古屋)

東北北海道学生馬術大会 (北大才二位 福島下優勝)

(於福島)

畜大対北大定期戦(秋) 北大勝

(於帯広)

第一回北海道馬術競技大会

自馬の部 二位 大久保利彦

三位 榊原正人氏

貸与馬の部 一位 岡本 光氏

二位 加藤 吝氏

団体戦 一位 北大OB

三位 北大現役

北海道学生馬術選手権大会 北大優勝

団体 自馬中障害第四位 岡田光雄氏

総合馬術 第七位 榊原正人氏

全国学生馬術選手権大会

十二位 榊原正人氏

(三) 入部金三百円、部費月百五十円也

又此の年、特筆すべき事は団体の貸与馬六頭を北大が購入しに事である。前々から、何とか自馬を保持したい。と云うのが吾々の念願であつたが其の資金飼料費の手を考えればどうてい考えられない事でも

有つた。それを何とかして貰おう、此の様に。と云つて太桑教授、松本教授を中心に校内の諸先輩の方々に動いていただき講入していただいたのである。即ち現在の自馬六頭は北大駘騎乗馬同好会及び北大OBライディングクラブ所有となり其の飼育管理一切は北大馬術部職員がこれに当る、と云う事に以り現在第一農場に一棟の厩舎と部室をいただき毎日部員二名が当番として宿泊して居るので有る。購入馬は次の通り。十一月一日講入。

|           |     |   |   |     |
|-----------|-----|---|---|-----|
| ミストクシロ号   | 中半血 | 牝 | 鹿 | 九才  |
| エリザベス号    | 不詳  | 牝 | 栗 | 六才  |
| シラカワ号     | 中半血 | 牝 | 鹿 | 十二才 |
| ミスアップテール号 | アノ系 | 牝 | 栗 | 八才  |
| 北斗号       | 中半血 | 牝 | 鹿 | 十二才 |
| ヨシタカ号     | 中半血 | 牝 | 栗 | 十才  |

昭和三十年度

自馬を持つて始めての年である。唯購入さえしていただければ、と思つて居たがいざ、飼育管理は一切部員の手で、となれば春、夏、冬の休みは如何にすべきか？又試験中はどうなるか？と云う部員の不安は気分が見え始めた。これでは困る何とかせねば！と



云うので皆の意見により春休みは二年生が主体となり当番に当る。又夏休みは二、三年生が主体、冬休みは皆である、と云う事になり、どうやら軌道に乗つた様である。又練習の方も月火木金午前中は部員（水曜は休日）土日は同好会費及び北大OBの方々の騎乗日とし、遠乗其の他、馬場以外の乗場は原則として主幹の許可を得ると云う申し合せにより実スムーズに活動が行われている。又年に二回の学内大会、部内大会と多種多様な行事も行われる様になり、部員も三拾名をこえる様になり、女子部員も三名加わり、男女同权、又は男女共学の一部が我外部にも有るのは更にほほえましい事である。

(一) 役員

|        |       |       |
|--------|-------|-------|
| 主幹     | 大久保利彦 | (獣四)  |
| マネージャー | 荒川 清  | (経三)  |
| 会計     | 宮沢 寛  | (農三)  |
|        | 斎藤 史  | (経三)  |
| 対外庶務   | 干田 哲生 | (獣四)  |
| 対内庶務   | 加藤昌太郎 | (理四)  |
| 部内庶務   | 樋口 正明 | (教養二) |

(二) 試合 畜大対北大定期戦(春) 北大勝

(於札幌)

東北大対北大定期戦取止め

東北北海道学生馬術大会 北大優勝

(於帯広)

旧七帝大定期戦 北大優勝 (於京都)

畜大対北大定期戦(秋) 北大勝

(於帯広)

第二回北海道馬術競技大会 (於札幌)

賞与馬の部 一位 加藤 百氏

二位 岡本 泚氏

団体戦 一位 北大OB

団体北城干送 通過 (於福島)

又其の他定期的大会の他に自馬としても出場しよう、と云う事になり種々金策をし、(御寄附によりまがむつた)復活以來初めて自馬北斗号とヨシダカ号を川崎市迄運び、(北海道より四頭出場)全国の自馬を相手にして堂々と戦つて無事帰つて来たのである。

結果 第十回団体

総合馬術北斗号 第十一位 加藤 育

中障害飛越ヨシダカ号第八位 大久保利彦

中障菅飛越北斗号 第十一位 神原正人氏(〇B)  
 六段飛越ヨシタカ号第三位 宮沢 寛  
 大障菅飛越ヨシタカ号第五位 大久保利彦  
 第八回全日本馬術大会

中障菅飛越北斗号第四位 神原正人氏(〇B)  
 六段飛越ヨシタカ号第二位 大久保利彦

(三) 入部金三百円也。部費月二百円也。

以上大体復活以來、今年迄の馬術部の歩みを書いて  
 わりであるが、一年々々部が完全にはまるとまり、全  
 くスポーツ団体として理想の部と云つても良いと思  
 う。又馬の争のみならず、勉学の争、若かりし頃に  
 一度は味あう悩み、など皆校刀一致して助け合つて  
 いる姿、これが本当の部としての活動ではなからう  
 が。唯一役員として三年間務めて来たのであるが、  
 何時も資金面に苦勞して居た様である。戦後の流行  
 の液にのつてダンスパーティーはる催しをして遠征史  
 の足しにしている。しかしこれは、かりをアテにして  
 居ると、馬術部即ちタンスの部。となつては困ると  
 思うのである。しかし部には一半年に一人ぐらひは  
 資金面を考えてくれる学生が現れるからさう心配し  
 たものでもないと思ふが……。

又三十一年度のバトンは宮沢寛君に渡して事を止  
 める事にする。  
 (十二・五)

(3) 以下段より(3)

にお知らせしなければならぬことは全勝祝賀会を行  
 つた日の午前五時から在札〇Bと現役とが試合をや  
 った。この意味は仲々深長なものがあつたが、勝つ  
 たのは勿論〇Bで、その夜のビールの味は格別であ  
 つたことを書きしるしておきたい。

## 北大乗馬同好会の現況

同好会 幹事 名 藤 善 一

昨年九月太紫康光を会長に戴いて北大販賣のリク  
 リエーション団体と一つとして乗馬同好会が発足し  
 た。幸い馬術部の校刀を擲て還乗会、北大乗馬大会  
 等も主催し名実上は会員七十二名の大世界となつた  
 が実質的には在学の〇Bを主体とした約二十名の活  
 躍して居るに過ぎない。馬術部と協定して毎週土、  
 日曜午後を練習時間にして賣つて約十名位が集り熱  
 心に練習に励んで居る。

乗馬大会では主体進手をOBライティテニスクラブに  
取られてしまうのであまり成績は芳しくないが同好  
会育ちの進手も大いに腕を上げて來たので來年から

## 御挨拶にかえて

### ―部の現況報告―

主将 宮沢 寛

馬術部も復活後どうやら六年目を迎え、亦白馬駱  
留期間も一年を過ぎ五里無中の段階から計画性によ  
る状態に入っている。

前年度は飼育管理を始めて最初の年でもあり予定  
算というものは一切無く、全く心 一点ばりで運営  
され亦そうしなればはらなかつに様である。馬匹  
購入に引き続いて起つた沢々の難問題をてきぱきと  
処理された。前主将大久保利彦先輩の手腕には心か  
ら敬意を表し、その万分の一にでも、あやかり度い  
と思つている。

-10- 新年度は飼育管理その他のも、諸先輩の多大  
の御援助により、一応落ちついて來に様であるから

は現役OBと劣らない強打チームとほる事が理想  
される。

部の活動も計画性を持たせ、部内の充実を計る様  
にしたいと考えてその手始めに今迄とだえていた先  
輩各位との交流を計画して、部報第一号を発行する  
次第です。

明年には戦後一度行つたにだけで中絶して居る東北  
大との定期戦も復活し度いと思ひ冬期帰省の途次、  
打合せをする手筈になつております。その他の定期  
戦も日時の決定して居ないので多いので、行年予定  
は次号に廻して次に役員と今迄の戦績を紹介しまし

#### (一)役員

|    |       |       |           |
|----|-------|-------|-----------|
| 主将 | 宮沢 寛  | 櫻林 彦三 | 津葉川 梶瀬 高平 |
| 副将 | 荒川 清  | 経済 三  | 札幌 西高平    |
| 飼育 | 藤部 満雄 | 農畜 三  | 長堅 崇 高平   |
| 会計 | 千葉 幹夫 | 教養 一  |           |
| 渉外 | 樋口 正明 | 法 二   | 東京 都新宿 高平 |
| 庶務 | 有藤 実  | 経済 三  | 福井 県藤原 高平 |
|    | 生田 勝一 | 教養 一  | 旭川 東高平    |

|     |    |    |    |    |     |    |
|-----|----|----|----|----|-----|----|
|     | 札鉄 | 北大 | 北大 | 札乗 | 同好会 | 勝数 |
| 札鉄  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | 4  |
| 北大  | ×  | ○  | ○  | ○  | ○   | 3  |
| 北大  | ×  | ×  | ○  | ○  | ○   | 2  |
| 札乗  | ×  | ×  | ×  | ○  | ○   | 1  |
| 同好会 | ×  | ×  | ×  | ×  | ○   | 0  |

(二) 戦績  
 本年九月、大久保主将からバトンを引き継いで、  
 みたものの、旧帝大定期戦十三回ぶりの制覇、東北  
 北海道大会の初優勝等、定期戦全勝という蘇々たる  
 戦果を獲得した後では、明年のことが全く重荷を  
 来年はこの内茂つ残るだろうと四年目諸兄にひや  
 かさされる度にすらりと並んだカツプがうめしくも  
 ぼつたりする。  
 今迄の所は次の様な状態を、まあまあ大過なく過  
 して本年も終りに近づいています。  
 九月四日五日  
 招待・札幌地区親善試合へ於北大馬場し

四年目諸兄の主催で新年度の進手の腕だ  
 めしとして行った。札幌市内チームとの  
 リーグ戦(一)内の数字は学年し

新メンバーによる初試合である  
 馬が全員少レばかり堅くはつた  
 様であるが、どうやら三勝を挙  
 げることが出来た。

北大乗馬同好会 北大

| 氏名  | 得点   | 出場番号 | 馬名   | 出場番号 | 得点    | 氏名     | 喰込点   |      |
|-----|------|------|------|------|-------|--------|-------|------|
| 佐藤  | -125 | 1    | 練山   | 6    | -98   | 樋口(=)  | +27   | 第一試合 |
| 滝沢  | -56  | 7    | シラカワ | 2    | -68   | 榎本(=)  | -12   |      |
| 瘦植  | -68  | 3    | つほめ  | 8    | -56   | 宮沢(=)  | +12   |      |
| 下飯坂 | -81  | 9    | 北斗   | 4    | -177  | 渡辺(=)  | -96   |      |
| 佐々木 | -173 | 5    | 太郎   | 10   | -78.5 | 荒川(=)  | +94.5 |      |
| 計   |      |      |      |      | -503  | -477.5 |       |      |

札幌鉄道局 北大

| 氏名 | 得点  | 出場番号 | 馬名    | 出場番号 | 得点   | 氏名    | 喰込点 |      |
|----|-----|------|-------|------|------|-------|-----|------|
| 市浦 | -28 | 6    | 幸運    | 1    | -10  | 榎本(=) | +18 | 第五試合 |
| 藤本 | -18 | 2    | ヨシカリ  | 7    | -19  | 荒川(=) | -1  |      |
| 門脇 | -22 | 8    | 朝満    | 3    | -48  | 樋口(=) | -24 |      |
| 山本 | -51 | 4    | タケマサル | 9    | -42  | 宮沢(=) | +9  |      |
| 新矢 | -2  | 10   | ヨシタカ  | 5    | -10  | 榎本(=) | -8  |      |
| 計  |     |      |       |      | -121 | -129  |     |      |

四ノ内

札幌乗馬倶楽部 北大

| 氏名   | 得点  | 出場番号 | 馬名    | 出場番号 | 得点  | 氏名    | 喰込点 |      |
|------|-----|------|-------|------|-----|-------|-----|------|
| 高橋   | -16 | 1    | 幸運    | 6    | -9  | 樋口(=) | +7  | 第九試合 |
| 奈良   | -43 | 7    | ヨシヒカリ | 2    | -21 | 宮沢(=) | +22 |      |
| 依田   | -30 | 3    | 朝満    | 8    | -22 | 榎本(=) | +8  |      |
| 小佐部  | -68 | 9    | タケマサル | 4    | -47 | 岡部(=) | +21 |      |
| 芝坂   | -29 | 5    | ヨシタカ  | 10   | 0   | 荒川(=) | +29 |      |
| -186 |     | 計    |       | -99  |     |       |     |      |

北大OB 北大

| 氏名   | 得点  | 出場番号 | 馬名   | 出場番号 | 得点     | 氏名    | 喰込点    |      |
|------|-----|------|------|------|--------|-------|--------|------|
| 有藤   | -23 | 6    | 練山   | 1    | -32    | 生田(-) | -9     | 第十試合 |
| 高杉   | -66 | 2    | シロカリ | 7    | -43    | 荒川(=) | +23    |      |
| 半沢   | -28 | 8    | つほゆ  | 3    | -37    | 樋口(=) | -9     |      |
| 正高   | -28 | 4    | 北斗   | 9    | -11    | 岡部(=) | +17    |      |
| 神原   | -76 | 10   | 太郎   | 5    | -56.34 | 宮沢(=) | +19.14 |      |
| -221 |     | 計    |      | -179 |        |       |        |      |

帯広畜大 北大

| 氏名      | 得点      | 出場番号 | 馬名    | 出場番号 | 得点      | 氏名    | 喰込点     | 学年    |
|---------|---------|------|-------|------|---------|-------|---------|-------|
| 千葉(=)   | -7      | 1    | リカレット | 6    | -25.1/2 | 荒川(=) | -18.1/2 | 第七期   |
| 内藤(=)   | -24.1/4 | 7    | 広風    | 2    | -8.1/2  | 宮沢(=) | +15.3/4 | 回戦    |
| 佐藤(=)   | -19     | 3    | チャンプ  | 8    | -9      | 岡部(=) | +10     | 対帯広畜大 |
| 平沢(=)   | -18     | 9    | 勇進    | 4    | -6      | 榎本(=) | +12     | 産大    |
| 藤木(=)   | -29     | 5    | 陽風    | 10   | -28     | 樋口(=) | +1      | 大     |
| -97.1/4 |         | 計    |       | -77  |         |       |         |       |

帯広畜大 北大

| 氏名     | 得点      | 出場番号 | 馬名    | 出場番号    | 得点      | 氏名    | 喰込点     |      |
|--------|---------|------|-------|---------|---------|-------|---------|------|
| 佐藤(=)  | -12     | 6    | リカレット | 1       | -45.1/4 | 千葉(-) | -13.1/4 | 同二軍戦 |
| 千葉(=)  | -19.1/4 | 2    | 広風    | 7       | -24.1/4 | 渡辺(=) | -5      |      |
| 内藤(=)  | -16.1/4 | 8    | チャンプ  | 3       | -49.1/4 | 山本(-) | -33     |      |
| 有藤(=)  | -26.1/4 | 4    | 勇進    | 9       | -21     | 斉藤(=) | +14.1/4 |      |
| 洲山(=)  | -9      | 10   | 陽風    | 5       | -36.3/4 | 生田(-) | -27.3/4 |      |
| 82.3/4 |         | 計    |       | 167.1/4 |         |       |         |      |

▽第七回対帯広畜産大学定期戦(於帯広)  
 例年秋の定期戦は、三年生以下で争うことになつて  
 いるので、双方共相手の実力、未知數で滑気味の  
 悪いものがあつたが、前二回に続いて三連覇を成し  
 とけ、千マレンジ権を北大の永久保管とすることが  
 出来、帰途駅前の草花で寮歌を合唱し、初遠征の勝  
 利を祝つた。

▽同二軍戦  
 明年の鳥を看えて、二軍は一年生を主体に編成し  
 にか、帯広畜大の三四年生に迎え打たれ、見事に惨  
 敗した。

ほお本年度最後の行争として十二月十七十八日全  
 日本学生馬術選手権大会に北海道代表として岡本光  
 さんが出場することになつてゐるが大いに期待でき  
 ると思ふ。

十一月十九日

対帯広畜産大学親善大会(於札幌競馬場)

| 帯広畜大  |      |      | 北大    |      |      | 第一軍戦  |      |  |
|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|--|
| 氏名    | 得点   | 出場番号 | 馬名    | 出場番号 | 得点   | 氏名    | 得点差  |  |
| 藤木(二) | -36½ | 6    | ヨシタカ  | 1    | -20  | 荒川(三) | +15½ |  |
| 佐藤(三) | -10¾ | 2    | アップデル | 7    | 0    | 宮次(三) | +10¾ |  |
| 平沢(三) | -67¼ | 8    | エリザベス | 3    | -47¾ | 百瀬(三) | +19½ |  |
| 千葉(三) | -35¾ | 4    | シラカワ  | 9    | -25¼ | 櫻本(三) | +10½ |  |
| 内藤(三) | 0    | 10   | 北斗    | 5    | -12  | 磯口(三) | -12  |  |
| -150¼ |      |      | 計     |      |      | -105  |      |  |

| 帯広畜大  |      |      | 北大    |      |      | 第二軍戦  |      |  |
|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|--|
| 氏名    | 得点   | 出場番号 | 馬名    | 出場番号 | 得点   | 氏名    | 得点差  |  |
| 沢(一)  | -69  | 6    | エリザベス | 1    | -61  | 千葉(一) | +8   |  |
| 林田(一) | -105 | 2    | シラカワ  | 7    | -61¼ | 山本(一) | +43¾ |  |
| 丸茂(一) | -25¼ | 8    | 北斗    | 3    | -25¼ | 生田(一) | 0    |  |
| 松本(一) | -14  | 4    | 朝清    | 9    | -22½ | 酒井(一) | -8½  |  |
| 百瀬(一) | -36¾ | 10   | 幸運    | 5    | -65  | 渡辺(一) | -28¼ |  |
| -250  |      |      | 計     |      |      | -195  |      |  |

# 珍事悪文いたずら日記

荒川清

現在の馬術部生活がどの様なものであるか、その愉快な出来事や苦しかりに手柄をふり返つて見るのには当番の壽任に於てつけている当番日誌を繕とくのが一番であり諸先輩に部の現況を知つていただく意味に於て適當と思ひ現在迄の日誌の抜萃を紹介致します。

十一月某日

夜陰に乗ずる。ぬすみ。の出没甚しく諸子身体の全きを得んと慾する平。宜しく留意せられ度し、馬場非常に悪く人馬転倒す。白河、アツアツと人馬共に興状なし。幸なるかな!!  
。女子部員カーテン持つて来る。

十一月某日

馬術部ダンスパーティー、産業会館PM6時より。白河夜間放馬せり異状ナシ。敷ワラ一車運搬。部屋の鍵の所有者と連絡とれず宿泊せず朝勤務につく。単害悔るべからず至急対策にてうれたし。

二月某日

昨夜来の猛吹雪の爲既會場出した半日を費す。雪の際は呉々も戸の隙間、特にエリザベスのところは厳重に注意して下さい。

四月某日

工先生トクシマにはねられコンクリートに尻を叩けられる。Mさんトクシマに蹴られるも急所より外れたる爲生命は無事各人乗馬の際は口と足に注意されし。トクシマ発憤みらしく取扱極めて困難。要注意!

七月某日

蚊が多くて大変である日本脳炎などに気がつたらそれでなくとも大変な頭かぞえこぞエライことになる。ほんとのかしてくれ!!

七月某日

暑い。暑い。暑い。今日又馬鹿に暑い。今日は馬も大変であろう練習は早朝か夕方にした方が良いと思う。部屋の蛍光灯は集積灯と同一な効果をもつのであるから蚊が大量に侵入する従つて毒蛾(ユアロクテス・フラバ)の恐怖に夜も寝れない。あ、恐しい。涼しくなつた。

十月某日

全馬日光浴。午前中は田中絹代、月丘夢路両嬢？  
穿ロケに来る。午後はキヤノン撮影会にてモデル嬢  
(勿論美人)が馬を可愛がつてるところを盛んに  
撮っていた。又寝蓑運搬中の我々一同もモデルにさ  
れた。あゝ恥し!

十月某日

蛋嚙所中存  
鬮采吸血液  
覚痒不得睡  
速可爲驱除



# どのいの夜の思い出

生 田 勝 一

「今日は泊りだよ」と言われると、あまり嬉しい気分にもはれないが、過ぎた日の思い出をたぐる時それが皆倫しい事はかりになる。既舎当番に於ける夜の仕事と言つても泊る以外にはこれと言ふべきことのほどもないのだが、にまたま突飛なことが起る。入部してから二週間程して初めて宿直の任に當つた夜、生憎とOさんが都合で少し遅れた爲に懐合に見て一人シユシユと銅葉桶をはずしにかかつた。間より馬の興奮が我分荒れてゐる様だつたが、何分初めの経験であり、たいして気にも留めなかつた。一番奥にいたアツファテールの桶に手を掛けに時だ。突然右肩先を銜えられ、一、二寸程持ち上げられてしまつた。夢中でなに事が叫びやつと下してもちつたが、肩のパットがなかつたらと思つたと部屋に歸つてから暫らくは動悸が静らなかつた。ギョツとしたことと言へば、こんなこともあつた。六月の或る日だつたが、春雨のしとくと降る陰気な夜、投草を与える時間になつたので、懐中電燈と鎌を手にし



て厩舎に赴いた。当時はまだ乾草を手えていた頃だつたが下度下の乾草が乏しくなつていたので二階へとりに上つた。梯子を登りつめて床板に足をかけに時だ。電燈の光の中に何か動く影を見た。一瞬サツと緊張し、左手の鎌を握りしめ、声をかけてみた。薄明りの中に乾草に背をむかせて、三十年輩の男がうぐくまつていた。暫らくの沈黙の後、彼の男はここに上つて兩宿りをしている由をくどくどと弁解し出し別に怪しい君ではないと言つて所持品まで出して見せた。火は絶対に使わない様にと言つて戻つて來たがあまり気味の悪いものではなかつた。

部屋に新型二段式ヤットが出来てからは泊りもあまり苦痛ではなかつたが夏の間は暑さと蚊とにホトホト参つてしまつた。カーテンをぴりり引いてバルサンの煙を充満させ毛布をかぶつて眠るのだが翌朝には身体の数箇所引掻の赤い跡が残るのが常だつた。

泊りの日にはしかし全然愉しいことがないでもない。すつかり仕事が終わるとたまには親愛なる先輩が「衝へ出ようか」などと言つてくれる時もあるからだ。この様な夜こそ、当番も又愉しからずやである。

# 生きものの記録 オ一回

一、自馬六頭の飼養状況 岡部 満雄

待望の自馬を得てから、早くも一年有余の才月を経た。その間我々の不注意から、事故馬を出した事も少くからずであるが、幸い厩馬になる様な事もなく、現在は六頭共皆元気で長い札幌の冬を迎えようとしている。ポプラ並木に続くオンボロ厩舎の中で

六頭の馬の飼育管理を一切やる事が、かくも消耗だとは、経験のよい二十数名の部員は一人だに想像出来なかつたのではないか。それも都会此の學校に比べて、栄養価の高い飼料の入手、比較的容易であると言う利点を、含み吞えて見ての上である。しかし現在二名の部員が交替を泊りがけの厩舎当番をやつてゐるが、講議という制約を受けながらも、懸命に仕事に勤めてゐるのも又事実である。団体や全日本に名を売つた「北斗」「ヨシタカ」の活躍も、本年度の数々の戦勝の記録も、我々部員が、日曜の度に狩り出されて、牧草上げたの寝やら運びだの乾草切り等と、汗を流したことが、何分の一かは力に

はつてゐる事を忘れたくはない。

話を具体的に床そう。現在各馬一日の運動量

積雪等の為不規則になりがちであるが、最大運動時

間三時間(坡度配合し)とし、過一日の馬体休養

日を設け、之等の馬に与える飼料として、燕麦三升

――昨今の経験から冬期の日量かえでは不十分では

ないかと思われるが、第一農場の在庫分の関係から

こうしている――塩十五、二十斤、冬期はCa飼料と

してナトリウムを加え、それに、投薬用の乾草

も共にして、ワググ冠の乾草を食べさせている。因

みに一年間で、各馬の体重がどの様に変つたかを見

るに、エリザベス号 四三五―四四二(上段二九年

十一月、後段三十年十一月、数字はkg以下同)

北斗号 四二六―四二八 ミスアムテール号 四三

二―四三五 ミストクシマ号 四六五―四六二号

第三白河号 四八七―四五九 ヨシタカ号 五一三

―四九二。

紙面の都合で、その他の詳細は次号に譲るとし、

最後に自馬の飼養管理に関して、建設的な御意見を

下されば幸いに思ふ次第です。

# チャレンジング「燈」争奪記

宮沢寛

本年四月三年生に好つたばかりで張り切つてゐる  
第三年生間を、一つ部内の運動会をも始めようか  
という話が出て、大久保主将と相談して部内競技会  
を開催することとした。例によつて延びくりに好り  
、第一回開催は、六月になつてしまつたが……。

この競技会は部員間の親睦が目的であるといふこ  
とから大会兼審判長は主将と女うことにして役員も  
一切全部員の介担を行い、いつも、審判その他をい  
る、御迷惑をかける先賢方にはその日はのんびり  
と見物して戴いた。

メインイベントの学年対抗及び出身地区対抗には  
部屋にころがつかつて居た、片っぱひだけの燈二個を探し  
出し、金色銀色に鍍金してチャレンジング?とするこ  
ととした。

第一回(六月五日)

(一) 巻乗り競技(一年生)

一位千葉 二位大倉 三位沼田

(二) 出身地区対抗障罫飛越(三年生以下)

北海道チーム——荒川。中根。渡辺。生田  
 本州チーム——宮沢。岡部。榎本。樋口

優勝 北海道チーム

個人賞 一位生田 二位渡辺 三位榎本

無減点賞 宮沢

(三) 学年対抗障碍飛越

この競技は別に学年間にハンデキャップをつけないことにしたので「勝つて当たり前、負けると面目がつかぬ」と云う高学年には苦手な種目である。

四年チーム——大久保岡本加藤(育)加藤(昌)斉藤(誠)千田

三年チーム——宮沢荒川榎本斉藤(実)中根岡部

二年チーム——樋口(二回騎乗)渡辺(二回騎乗)

山本生田

優勝 四年チーム 二位 三年チーム

個人賞 一位榎本 二位大久保 三位加藤(昌)

無減点賞 千田

(四) 馬場馬術(二、三年生内種の後半の一部を除いたもの)

一位宮沢、二位荒川、三位榎本、四位岡本、五位樋口

(五) 五段飛越(一年生)

一位山本 二位生田 三位村山

第二次(十一月十九日)

団体優勝で部員全員が在札せず馬も少く、亦冬休に備えて休日は晴天ならば毎日乾草運び寝むら運搬厩舎修理などと冬に備へる。作業を行つたので仲々開催することが出来ず遂に帯広畜大との親善試合の折に「学年対抗」のみ挙行した。尚団体、全日本に於けるヨシタカ号の健闘を記念して、カツアを一つ購入しヨシタカ記念杯と名づけて争奪することにした。

優勝 三年生チーム 二位 二年生チーム

| 二年    |      | 三年  |       |
|-------|------|-----|-------|
| 名     | 点    | 名   | 点     |
| 氏 渡   | -24½ | 名 葉 | -8½   |
| 氏 邊   | -22½ | 氏 千 | -54¼  |
| 氏 樋   | -209 | 氏 酒 | -162  |
| 氏 樋   | -17½ | 氏 村 | -16¾  |
| 氏 渡   | -37¾ | 氏 山 | -85   |
|       |      | 氏 本 |       |
|       |      | 氏 田 |       |
|       |      | 氏 生 |       |
|       |      | 計   | -326½ |
| ~~~~~ |      |     |       |
| 二年    |      | 三年  |       |
| 名     | 点    | 名   | 点     |
| 氏 田   | -4   | 氏 葉 | -3    |
| 氏 保   | -89  | 氏 榎 | -30   |
| 氏 加   | -51½ | 氏 荒 | -173  |
| 氏 藤   | -39½ | 氏 宮 | -11   |
| 氏 千   | -129 | 氏 部 | -12   |
|       |      | 計   | -229  |

# 編集後記

○半年前から懸案の部報がやっとまとまり、これを概に先輩現役の交流の派まることを希むたい。

○編集子の至らぬ故、出来ばえの程は保証し難いが、およせ下さつた各執筆君には他からお礼申し上げる。

○今后は先輩諸兄の投稿をまつて一層充実したものにした。

○馬術部復活五年、そろそろ「部史」をだしてはの話もある。今后諸先輩の助力を得てせむとも発刊させたいものである。

○馬術部への連絡は、

札幌市北11條西7丁目

北大第一農場気付

北大馬術部へ

旧帝大定期戦・戦績表

|     | 日時  | 場所 | 選手名                              | 結果       |
|-----|-----|----|----------------------------------|----------|
| 第一回 | 27年 | 仙台 | 古谷昌司 後藤義英 斎藤善一                   | 戦後初出場    |
|     |     |    | 永井重翁 下飯坂隆 榊原正人<br>榊原正人 加藤 春 岡本 光 | 北大第二位    |
| 第二回 | 28年 | 札幌 | 阿部渡一郎 大久保利彦                      | 東大優勝     |
|     |     |    | 田中 浩 正富宏之<br>榊原正人 加藤 春           | 北大第二位    |
| 第三回 | 29年 | 岡崎 | 正富宏之 岡本 光                        | 東大優勝     |
|     |     |    | 大久保利彦 加藤昌太郎                      | 北大第二位    |
| 第四回 | 30年 | 京都 | 大久保利彦 加藤 春 荒川満                   |          |
|     |     |    | 岡本 光 宮尺 寛<br>加藤昌太郎 干田哲生          | 北大 戦後初優勝 |

# 戦績表

東北・北海道大会成績表

|     |           |          |  |           |
|-----|-----------|----------|--|-----------|
| 第一回 | 日時<br>27年 | 場所<br>札幌 | 選手<br>古谷昌司 後藤義英 有藤善一<br>永井重翁 下飯坂隆 神原正人<br>神原正人 阿部渡一郎 岡本光 | 結果<br>第二位 |
| 第二回 | 28年       | 岩手       | 正富宏之 田中 浩 加藤 春   | 第四位       |
| 第三回 | 29年       | 福島       | 大久保利彦<br>神原正人 加藤 春 岡本 光<br>正富宏之 大久保利彦 加藤昌太郎              | 第二位       |
| 第四回 | 30年       | 札幌       | 大久保利彦 加藤春 干田哲生<br>加藤昌太郎 岡本光 阿部孟雄                         | 初優勝       |

対馬広畜産大学定期競技成績表

|       | 日時       | 場所    | 北大                                    | 畜大                                  | 勝  |
|-------|----------|-------|---------------------------------------|-------------------------------------|----|
| 復活第一回 | 26.10.27 | 帯広    | 古谷昌司<br>後藤義英<br>下飯坂隆<br>永井重翁<br>渡植貞一郎 | 不明                                  | 北大 |
| 第二回   | 27.9.21  | 札幌    | 古谷昌司<br>佐藤義英<br>下飯坂隆<br>永井重翁<br>有藤善一  | 不明                                  | 北大 |
| 第三回   | 28.10.11 | 帯広    | 神原正人<br>田中浩<br>阿部渡一郎<br>加藤春<br>大久保利彦  | 不明                                  | 畜大 |
| 第四回   | 29.6.6   | 札幌競馬場 | 神原正人<br>正富宏之<br>大久保利彦<br>岡本光<br>加藤春   | 渡辺裕<br>上島栄<br>井上晴夫<br>有藤九二三<br>洲山達男 | 畜大 |

|     | 日 時        | 場 所  | 北 大                                     | 畜 大                                       | 勝                                     |
|-----|------------|------|---|---|---------------------------------------|
| 第五回 | 29. 9. 13  | 帯 広  | 大久保利彦<br>岡本 光<br>加藤 春<br>加藤昌太郎<br>宮沢 寛  | 香藤九二三<br>洲山 達男<br>佐藤七七郎<br>内藤 厚夫<br>佐堅 幸男 | 北 大                                   |
| 第六回 | 30. 5. 17. | 北大馬場 | 同 上                                     |   | 北 大                                   |
| 第七回 | 30. 10. 15 | 帯 広  | 宮沢 寛<br>荒川 清<br>岡部 満雄<br>櫻本 幸人<br>樋口 正明 | 内藤 厚夫<br>佐藤七七郎<br>千葉 滋<br>平沢庄次郎<br>藤木 清   | 北 大<br>三連勝によ<br>りチアレンジ<br>楯北大永久保<br>官 |

# 馬術部名簿

| 部長    | 氏名                   | 住  | 所                | 勤務           |
|-------|----------------------|----|------------------|--------------|
| 永井 一夫 | 東京郡中堅区昭和通り三丁目二九番地田中方 |    |                  |              |
| 高松 正信 | 札幌市北一條西二二丁目          |    |                  |              |
| 黒沢 亮助 | 札幌市南一條西二一丁目          |    |                  |              |
| 太栗 康光 |                      |    |                  |              |
| 氏名    | 学部                   | 住  | 所                | 勤務           |
| 先輩    |                      |    |                  |              |
| 四年度   | 中堅友二郎                | 農  | 新潟県高田市南條町一丁目三三   | 県立新井高        |
| 五     | 眞鍋 雅彦                | 畜二 | 長崎県諫早市原口町六七五     | 長崎市役所        |
|       | 平山 常介                | 工  | 西宮市原町(昭十八年)      |              |
|       | 關 克市                 |    | 浦河郡浦河町西舎官舎       | 農林省日高種畜牧場    |
| 六     | 松本 久喜                | 畜一 | 札幌市南九條西二十丁目      | 北大           |
|       | 三谷 秋三                | 畜二 | 東京都江戸川区小岩町二ノ二九四一 | 日本中央競馬会      |
|       | 岩垣 歌夫                | 園芸 | 福島県信天郡平堅村        | 福島県園芸試験場     |
| 七     | 永松 四郎                | 畜一 | 東京都世田谷区松原三ノ八〇二   | 高澤製紙C.L.T.D. |
| 八     | 武田 朝男                | 畜一 | 仙台市荒巻台ノ原下六ノ一     | 東北弘豊社        |
|       | 半沢 道郎                | 農林 | 札幌市北六條西一二丁目      | 北大           |
|       | 田畑 武夫                |    | 札幌市南五條西一丁目       |              |
| 九     | 栗園 基文                | 製  | 東京都渋谷区小幡通二ノ二三    | 養管伝商會        |
| 一〇    | 久藤 昇                 | 畜二 | 兵庫県多紀郡飯北村郡家八七五ノ一 | 兵庫農大         |

|    |       |    |                      |                            |
|----|-------|----|----------------------|----------------------------|
| 一  | 高杉 直新 | 理化 | 札幌市北七條西一三丁目          | 北大                         |
|    | 小笠原義雄 | 製化 | 滋賀県城田郡相原村相原五〇〇       | 日本電気大津工場                   |
|    | 陽田代子郎 | 製化 | 名古屋市千種区清住町二丁目三五      | エニサン卜化成四日市工場               |
|    | 大造 明德 | 農化 | 姫路市城東町五軒屋三ノ一五(昭和十八年) |                            |
|    | 吉見 一郎 | 農経 | 札幌市南穂町三六             | 雪印乳業                       |
| 一二 | 苴賀 秀明 | 医  | 東京部目黒区               |                            |
|    | 森山 武雄 | 医  | 大津市大谷町三七(昭和十八年)      |                            |
|    | 前壁 正久 |    | 東京部目黒区森永乳業研究所内       | 森永乳業研究所                    |
| 一三 | 石井 富長 | 養化 | 茨城県石岡市元真世二二三         | 東京通商産業局<br>石岡了小工業工場        |
|    | 小林 達夫 | 農生 | 岡山県                  | 岡山大学理学部                    |
|    | 前川 靜浦 | 理化 | 室蘭市茶津町社宅番外六号         | 日鋼                         |
|    | 橋本 勝登 | 農経 | 大阪府八尾市西通南二丁目社宅WD六号   | 人争院大阪世行争務所                 |
|    | 高井 久芳 | 畜一 | 雅内市                  | 北海道宗谷支庁拓殖課                 |
|    | 山下 正亮 | 畜二 | 札幌部島村字輪厚             | 農政家畜診療所                    |
|    | 松平 悦  | 農学 | 東京部渋谷区繁丘町五六          | 日本麦酒日黑工場                   |
| 一四 | 江内 武夫 | 畜二 | 東京部板橋区三ノ六三四七         | 日本中央竞馬会                    |
|    | 小田 弄  | 畜二 | 静岡県浜海市伊豆山一八二         |                            |
| 一五 | 西村 雅吉 | 理化 | 札幌市南二一條西一丁目          | 北大                         |
|    | 菅間 誠  | 畜二 | 三、二四、                | 雪印乳業                       |
|    | 中尾 親司 | 工鋳 |                      | 大日本鋳業百元鋳業所<br>秋田県雄勝郡西沢川( ) |
|    | 水谷清喜英 | 農実 | 金沢市古井町               |                            |



|    |       |    |                    |             |
|----|-------|----|--------------------|-------------|
| 一六 | 石井 和彦 | 畜二 | 鳥取市湯所い住宅一―一屋       | 鳥取大学        |
|    | 坂田 照忠 | 農林 | 高知県安芸郡魚梁瀬材         | 魚梁瀬管林署長     |
|    | 稲元 幸彦 | 医  | 札幌市南七條西四丁目         | 稲元小児科       |
|    | 関 義人  |    |                    |             |
|    | 半沢 宏  | 工機 | 札幌市北六條西一―二丁目       | 北大          |
|    | 高木 史朗 | 工鋳 | 茨城県東茨城郡川根材         | 川根中学        |
|    | 伊藤 悦郎 | 工鋳 | 河東郡十隈村字中士俣         | 北斗産業        |
|    | 藤沢 汎  | 農実 | 小樽市忍路郡塩谷材          |             |
|    | 河原 清作 | 土工 | 鳥取立川町二丁目県管アパ―ト一―一室 | 鳥取大学        |
| 一七 | 山根 之彦 | 畜二 | 札幌市南七條西二―三丁目       | 札幌市役所       |
|    | 武田 光夫 | 土工 | 札幌市南區永田町三七五        | 農林省神奈川食糧事務所 |
|    | 斯通 愛男 |    | 千ノ野町庭村字漁           | 北海道庁経済部畜産部  |
|    | 中曾根 實 | 農実 | 青森県平部石川町紫師堂        |             |
|    | 日取 隆三 | 農実 | 空知郡砂川町北本町三井木材社宅    | 三井木材砂川工場    |
| 一八 | 大戸 洋  | 林  |                    |             |
|    | 平井 宏和 | 工  |                    |             |
| 一九 | 稻葉 謙一 | 農化 | 大阪府高槻市南園町三一七       | 日本油脂        |
|    | 福崎 邦彦 | 農  | 札幌市北一〇條西一丁目        | 道庁内総合開発     |
|    | 大平 要夫 |    |                    |             |
|    | 山本 皇  |    |                    |             |
| 二〇 | 川添 正次 | 畜  | 東京都中野区賢の倉一ノ二九三     | 東京都経済局農業改良係 |

|      |        |    |                 |             |
|------|--------|----|-----------------|-------------|
| 二一   | 羽島 栄治  | 畜  | 札幌鉄道局           | 札幌副支配人宅総務   |
| 二一   | 宇津見千之助 | 農  | 熊本県菊池郡合志村       | 熊本県立種畜場     |
| 二二   | 宮崎 利昭  |    |                 |             |
| 二二   | 和田 晴   | 畜  | 札幌市南六條西二〇丁目     | 十勝支庁(帯広市)   |
| 二六   | 武田 裕幸  | 理  | 函館南港町           | 北大          |
| 二六   | 田之上家久  | 水  | 函館南港町           | 北大水産学部      |
| 二八   | 古谷 昌司  | 畜  | 崎五郎市和市          | 古谷製菓東京工場    |
|      | 後藤 義史  | 獸  | 札幌市宮ノ森四山動物園内    | 四山動物園       |
|      | 芥藤 善一  | 畜  | 札幌市南五條西一五丁目     | 北大          |
|      | 渡根貞一郎  | 畜  | 札幌市北二〇條西三丁目     | 北大          |
|      | 佐藤 巖   | 畜  | 米田留字中           |             |
|      | 梶谷 晴男  | 水  | 大阪市生野区新今里町五丁目一七 | 大阪魚市場       |
|      | 下飯坂 隆  | 畜  | 静内郡静内村御園        | 北大日高実験農場    |
|      | 永井 重翁  | 獸  |                 | 秋田市役所       |
|      | 藤野 保   | 畜  | 標津郡中標津町         | 道庁試験室支場     |
|      | 鈴木 敏夫  | 畜  | 網走市美幌町          | 美幌高校        |
| 二九   | 福島 務   | 医  | 仙台市原町小田原神江二九    | 北大医学部産婦人科   |
|      | 吉本 正   |    |                 | 宮城農業試験場     |
|      | 神原 正人  | 畜  | 日高国静内村          | 北大日高実験農業試験場 |
| 三〇   | 正雷 広之  | 理生 | 札幌市北八條西一八丁目     | 北大          |
| 田中 浩 | 工      |    |                 |             |

阿部晃一郎 工

死亡 辻村憲吉、大塚貞治郎、丸鬼誠之助、沢田鶴松、岩橋婦一、下條親、雷程松、山本義則、石川正吉、永田敏雄、佐藤誠龜、永倉寛、小林誠平、福本途夫、安達信一

現部員

|    |       |      |              |                    |
|----|-------|------|--------------|--------------------|
| 四年 | 大久保利彦 | 獸四   | 札幌市琴似町東八軒高橋方 |                    |
|    | 岡本 光  | 農四   | 北一五西一        |                    |
|    | 加藤 春  | 獸四   | 北三西一四藤本方     |                    |
|    | 加藤昌太郎 | 理四   | 北一四西二北学寮     | 東京都北多摩郡国分寺町戸倉新田九二四 |
|    | 干田 哲生 | 獸四   | 北一四西二( )     |                    |
|    | 三井 康  | 農種四  | 北七西五蔗居方      | 摩戸郡新十津川村一六区        |
|    | 有藤 成俊 | 農種四  | 北七西八渡辺方      |                    |
|    | 石坂 和夫 | 獸四   | 北一六西八榆影寮     |                    |
| 三年 | 宮沢 寛  | 農種三  | 北一七西四加藤方     | 横須賀市田浦町二ノ八四        |
|    | 荒川 清  | 経三   | 南八西二四        |                    |
|    | 阿部 満雄 | 畜三   | 北七西一三進修寮     | 長野県南佐久郡佐久町上田       |
|    | 有藤 実  | 経三   | 外中島北留方       | 福井県福井市下北堅町一八       |
|    | 榎本 幸人 | 遷三   | 北一五西五北大センター寮 | 武蔵野市吉祥寺一八二八        |
| 二年 | 樋口 正明 | 法二   | 北一七西八恵迪寮     | 東京都世田谷区上馬町二ノ一三     |
|    | 渡辺 俊弘 | 王冠化二 |              | (夕張市平和一区四二)        |
|    | 林 耕輔  | 農二   |              | 三石郡三石町歌笛           |
|    | 興津 銀子 |      | 北二〇東三首藤方     | 神奈川県大磯町東小磯三五六      |

帰 省 地

